

2025年度「事故速報」（対象：幼児、小学生、中学生、高校生、一般）

（注）その月に報告のあった事故をまとめた速報です。

2025.5.31現在

No	発生日	報告日	学年等	性別	経験年数	病名	重大 準重大	場所 状況	技名等	概要	事故防止の指針
1	3/23	4/7	中2	男		頭部打撲	—	専門学校 柔道場	裏投	試合中に裏投げで投げられて後頭部を打った。現場で対応した救護ドクターの指示で2回検査を受けたが異常はなく、事故前の生活に戻っている。	裏投げによる事故が連続して発生している。裏投げは受け身が取りづらく、投げられた側の衝撃が大きいため、小学生以下は反則となっている。乱取りでは裏投げなどの際には同体で倒れ込まず、しっかりと立って投げることを徹底することが重要である。また、柔道人口の減少に伴って機会が増えている合同練習や錬成大会などでは、初心者や白帯、圧倒的に経験や体力で劣る相手との乱取りの際に格別な配慮を行うように、指導者は生徒や選手を指導する必要がある。全国大会の予選などとは異なり、合同練習や錬成大会では圧倒的な技能差や体格差・体力差から生じる事故を未然に防ぐ対策が講じやすい。「巻き込みはすべて禁止」「双方の指導者が実力差がありすぎて危険だと判断したら試合を終了させる」「白帯の相手に膝をついての背負い投げや裏投げをしない」などの申し合わせを事前に設定するのも選択肢に上がる。
2	3/29	4/17	高2	男	1年11ヶ月	脳しんとう	—	高校柔道場	裏投	乱取り中に裏投げで投げられた。指導者の指示で早退したが、帰宅後も頭痛がおさまらず、手の震えや発熱などの症状も出たため医療機関を受診して脳しんとうの診断で2日間入院した。医師の許可を得て1か月後から練習を再開し、5月の大会から試合に復帰した。	
3	4/20	4/20	高2	男	4年	脳しんとう	—	専門学校 柔道場	裏投 (背負投げを返された)	試合中に背負投げを裏投げで返された。救急搬送され、1泊2日で検査入院した。診断名は脳しんとうで、柔道の復帰時期は医師と相談しながら検討中。	
4	2/23	4/30	小1	男	2年6ヶ月	硬膜下血腫	—	市武道館	裏投 (背負投げを返された)	乱取り中、右組みで背負投げをかけた際、両腕を抱えられて捻りを加える様にして裏投げで投げられ受け身を取れず頭部を畳に強打して意識を失った。医療機関へ救急搬送され、急性硬膜下血腫と診断された。約2週間後に退院し、地元の医療機関での外来加療となった。	
5	4/19	5/1	高3	男	2年	脳しんとう	—	高校柔道場	背負投	試合中に背負投に入られてうつ伏せで畳に落ちた。試合再開後、棒立ちのような姿勢のままきれいに投げられてすぐに試合は終了した。試合中の記憶がないため医療機関を受診。医師に軽症の脳しんとうと診断された。医師の許可のもと練習に復帰した。	頭部打撲の可能性のある場合には、受傷者のその後の動作や表情に注視する必要がある。何らかの異変を感じた場合には、ただちに試合や練習を中断するか、救護ドクターの診察を求めるか (注：頭頸部の重大事故が疑われたため救護医師の診察を求めた場合、医師が問題ないと判断すれば試合は続行できる)、医療機関への緊急送を検討する必要がある。
6	1/14	5/2	52歳4ヶ月	男	1年4ヶ月	左眼窩底吹き抜け骨折	—	柔道場	袖釣込腰	乱取り中、袖釣り込み腰で投げられた際、相手の左肘（または左肩）が左眼付近に当たり、左眼窩底の吹き抜け骨折を受傷した。医療機関へ救急搬送され、緊急手術を受けた。	中高年の柔道事故が増加している。加齢による体力や運動能力の衰えから適切な身のこなしや対応動作が取れない場合もある。年齢に応じて練習内容や試合の仕方を工夫することも重要である。

【全柔連見舞金制度】
全柔連は、見舞金制度を設けており、その費用（2023年度から50 0 円）は登録時に支払ってもらっています。一部には、大会に出場しない、昇段しない等の理由で登録しない競技者も見受けられます。
乱取りなどに参加していなくとも、投げ足などで重大事故に巻き込まれた過去の事例もあります。柔道を安心して楽しむために、柔道をやられる人は全員、登録（見舞金制度加入）をお願いいたします。

※病名（診断名）はあくまで治療に当たった医師によるものであり、担当医師が下した診断や治療方針が適切であったかどうかに関しては、当連盟の医科学委員会が必ずしも同意したものではありません。特に頭頸部の外傷の診断は難しく、専門医でも診断が異なる場合がありますことをご理解ください。

※受傷後の経過に関しても同様であり、必要に応じて当連盟でヒアリングなどの追跡調査を行っていますが、あくまで報告者による申告と当連盟登録者への見舞金の請求に基づいたものになります。